

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第144号 (2023.11.19-2023.11.26)

- ◆ 参加者：片羽雲雀、しまねこくん、汐田大輝、宮坂愛哲、何となく短歌、小山あすか、ささぎ、花野玖、ラーラ、西脇祥貴、中村マコト、元さん、たろりずむ、西沢葉火、おかもとかも、Tatano Kaneko、水の眠り、古城えつ、小沢史、石川聡、みさきゆう、ダリア201、crazy lover、山羊の頭、しろしも、かれん、比島アルト、もふもふ、萩原アオイ、温のぎ、りゆうせん、ちゆんすけ、涼閑、輪井ゆう、阿笠香奈、カゲキ・ちゃげぞう、天雷、うつわ、鴨川ねぎ、ねぎ、丸山修平、石原とつき、まつりへきん、佐竹紫円、ユウ、燕雀之心、東ころ、岡村知昭、海馬、蔭一郎、春水睦月、はゆき咲くら、むーみんママ、小夏、巢鳥、KOTOMAWA天国、風ちひろ、ヴたこ、だよ、水色の午後、十六夜、とるぼとる、Magwort、名犬、ぼち、ピアス、STUDIO Kawa、2月波与生(六五名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

地下道の隅の無風を触りたい おかもとかも
借りてきた冬服だからおとなしい しまねこくん
靴を履き靴のまんまでおでん鍋 しまねこくん
ぜんぶひらがなのてがみを焼いて寝る 岡村知昭
片方のまゆ毛を剃ってししゃも焼く 蔭一郎
顔だったと分かる省略が効いている 海馬
ベニズワイガニと叫んで禁固二年 岡村知昭
おかめより粋なをんなのもつ熊手 syusyu
てにをはをくすぐられるとたままない おかもとかも
冬薔薇高学歴と付き合った事無い ダリア20
さようなら右に傾く谷町線 中村マコト

紅葉もみぢ鬼女となるほど愛せぬが ラーラ
時雨来て塩分の濃い犬吠える 汐田大輝
焼き芋になれなきや何にもなれねえぞ しまねこくん
鍵穴をほじる思い出ことほじる しろとも
きずあとに都を造るシジミチョウ まつりぺきん

冬菫きみになりたい日もあった 片羽雲雀
定年や息を殺して仕事する 宮坂変哲

くちびるを縫われて終わる反抗期 小山あすか
ふわふわと枯芝踏まば空青し 花野玖

すがると生地が出ちやう中島みゆき 西脇祥貴
松ぼっくりのアーカイブ 西沢葉火

暫定やザイムはザムザ繰り返す Tatsuo Kanase
鈍痛は卵ケースに隠してる 小沢史

浅漬はりぱり脳は脂で出来ているよ 石川聡
理屈っぽい本性つかれ去ってゆく我 crazy lover

興味深黒いカバンを聴いた昼 山羊の頭
純潔がすみ色だからゆるせない かれん

老いらくの恋に冷酒も火に油 もふもふ
幻想がむくんで靴下が脱げる りゆうせん

真円をきちんと描く冬の家 ちゆんすけ
思い出をひとつ沈めた冬の家 涼閑

綿毛だけ世界のヒビを撫でている 輪井ゆう
ああこんなにも私は猫を抱きたい 阿笠香奈

ガタゴトと揺れて流され荒川線 カゲキ・ちゃげぞう
君と僕だけの言語で話そうよ 鴨川ねぎ

狂わせるドッジボールが徐々に赤 丸山修平
薄暮は「そんなものよ」しゃっくりの二人羽織 石原とつ

き
冬ざれの一部となりて吾は立てり 佐竹紫田

溶けだしたアイスクリームほどの恋 東こころ

蒸し暑い愛など金魚鉢の外 小夏巢鳥

天狼の青き光に胸射らる とるぼどーる

overdose めけるイチヨウの夜は冴ゆ mugwort

蝶として空をなぞればゆうらしあ 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

イチヨウなら銀河になった喧騒に静かに佇む銀河になった

ユウ

侘しくて 100c 中に出すそれとも口にはほんとの愛は ヴた

こ だよ

この先につながるものは君の手じゃないと知ってた、じつ
と手を見る 何となく短歌

北風の冷えた空気が優しきの温もり変わる恋人の街 元さ
ん

落ちてゐる百円玉を拾えないかと言って踏んだりもできな
い たろりずむ

難産か！ 十一階のマンションを倒す気になって会えたよ

BABY 水の眠り

コンビニが無かった頃の熱っ熱はカイロ代わりな！コーン

ポタージュ 古城えつ

来春の約束をする千切られたほころびを縫い繕いながら
みさきゆう

「しあわせにする」と約束したことを網戸もしっかりと聞
いていた 比島アルト

セフレじゃないよねって怖くて聞けなくて今日も自分を無

駄遣いして 萩原アオイ

ドア凹み白い傷跡縦線にドラレコ映像出したるか 温(ミ)

いつまでもくもりが残るサングラス安いレンズを丁寧に拭く 夭天雷

恍惚のあなたとともにはじめよう哲学的な対話と考察 うつわ

中学で同じ部活の同級生今や地元の医師会会長 Take

なにもかもゴミ回収に送りだす梯子が架かり虹に呼ばれはゆき咲くら

園と軍信州の地でパルセイロ青空映えるアルプスになれ

燕雀之心

緋緋(あかあか)と目を焼くように帳(とぼり)降り

あなたとわたしを永遠(とわ)に隔てる 春永睦月

胎盤を持ち帰ると言った娘医者に断られせめてと、撫でて

離れる むゝみんママ

眠れない夜だからこそあなたから「おやすみなさい」と言

つてほしくて KOTODAMA 天国

人生の折り返しかはわからない保険会社の「長生きリスク」

凧ちひろ

窓の外強風が吹く山小屋の風音に似た記憶の音 水色の午

後

真夜中のぶらんこ蹴り上げ冬銀河 夜も眠れずひとり彷徨

う 十六夜

◆ 詩

※ 今回提出はありません。

◆ 作品評から

靴を履き靴のまんまでおでん鍋 しまねこくん

〜アメリカ人やからかな? (名犬 ぼち)

愛しくて幸せだった。雲のクラウドに僕も上がっていき
いた。水色の午後

　　クラウドコンピューティングが当たり前になってしま
ったが少し前までフロップピーディスク一枚でも愛しくて幸
せだったのだ。(月波与生)

この先につながるものは君の手じゃないと知ってた、じつ
と手を見る　何となく短歌

　　見てた手を、別の誰かが見てた。だからもう、この手
はひとりぼっちじゃないよ。(ピアス)

南港と天王寺を行き来する野鳥はどこで眠るのだろう　古
城えつ

　　インターネットカフェで眠りました。鳥語が分かるよ
うになると人語はきつく感じます。(月波与生)

ひとりでも白線の上まっすぐに　中村マコト

　　白線から落ちたら地獄なんだよなと思いつつ、いつの
まにかボクたちは白線の上を歩かなくなった。あれからず
っとボクは地獄に住んでいる。(月波与生)

美しい思い出として片付けて非通知だけど誰だか分かる
馬勝

　　「非通知だけど誰だか分かる」心情に泣ける。ちなみ
に私は非通知には出ません。(月波与生)

セーターはわたしを脱いで横になる　蔭一郎

　　ああセーターになってしまいたい。変に振じらず「わ
たしを脱いで」とシンプルにしたのもいい。(月波与生)

侘しくて 10cc 中に出すそれとも口にほんとの愛は ヴた
こ だよ

く深い詩ですね。真をついていると言いますが人間その
ものですね (STUDIO KAWA. Z)